

1 児童の現状分析

児童アンケートから、問題を解決する方法を考え、それを友達と伝え合う学習が楽しいと感じている児童が多数を占め、学習意欲や知的好奇心が高いことが分かった。また、漢字や計算など基礎的な力が身に付いている児童が多い。タブレット型パソコンも、スムーズに使うことができる。一方で、読書を好まない児童が多い。

2 各教科等における授業改善の視点

授業改善の視点	
国語	○全国学力調査では、字数内で、要旨をまとめたり、自分の考えを述べたりする問題が出題された。主題や要旨に対する自分の考えを書く活動は普段からしているが、さらに字数制限を設定し、相手に伝わるように簡潔に書く力も身に付けさせる。また、読書活動を意図的に行い、すすんで読書をする児童を育てる。
社会	○社会的な見方・考え方を働かせるために、時代の比較や同時代の比較などを授業に取り込み、児童それぞれの気付きや考えを伝え合い、深め合う活動を授業に取り込む。また、ICTを活用した視覚教材を使用し、児童の興味を高める工夫を行う。
算数	○特に図形の学習において、知識を活用した思考ができていない児童が目立った。タブレット型パソコンを活用し、知識の定着を確認したり、児童の考えを共有させたりすることを通して、思考場面の充実を図る対話的な授業を行う。
理科	○デジタル教科書を利用した視聴覚教材などを継続して活用することで、実験や観察に興味をもてるようにする。また、既習の実験方法を基にして、調べたり、検証したりすることを繰り返していくことで、条件を整えて調べることの必要性や自分の身近なことに関係していることに気付けるようにする。
音楽	○児童自身が思いや意図をもって表現活動ができるようにするために、児童の意見を取り入れながら表現活動を行う。タブレット型パソコンを用いて振り返りや曲の表現方法の共有などを行い、自身や友達の成果を見取れるようにする。
図画工作	○既習の知識・技能を生かしながら、自分の作りたいイメージに合わせて、様々な材料や用具の使い方を工夫できるようにする。また、友達と対話する時間を設定し、感じたことや考えたことを広げたり深めたりできるようにする。
家庭	○「スクールタクト」を活用し、児童自らの学習をまとめるとともに、互いの学びにつなげられるようにする。5学年での学習を生かして学習が進められるように、タブレット型パソコンを活用して、既習事項を振り返るとともに6学年の学習内容につなげる。
体育	○児童が自身の動きを見返したり、模範とする動きと細部を比べたりすることができるように、タブレット型パソコンの録画機能や「NHK for school」を活用する。互いに動きを見合い、良さを伝え合うことができる場面を設定する。
外国語	○毎時間デジタル教科書を活用し、チャンツに合わせて繰り返し発音練習をさせた上で、友達との対話活動を多く取り入れる。必要に応じて、タブレット型パソコンを調べ学習等で活用させ、児童の主体性を高める。
道徳	○児童の発言を価値観で分けて書くなど板書を工夫したり、発問を吟味したりすることで、多様な考えや感じ方があることを児童が実感できるようにする。また、必要に応じて話し合いを取り入れ、児童同士で学び合えるようにする。
総合	○「課題の設定－情報収集－整理分析－まとめ・表現」のサイクルを意識しながら活動を行う。話し合い活動の際には、視点を細かく提示することで、話し合いが充実するようにする。まとめにはタブレット型パソコンを活用し、相手に伝わりやすく発表できるように、プレゼンテーション能力を育てる。